

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名 京都府

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	長岡京市立長岡中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	5	2	15	28
生徒数	150	138	170	5	463	

研究の概要

1. 研究主題

生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導による「確かな学力」の充実

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年・数学

昨年度まで、数学の少人数授業に取り組んでおり、その研究実績があるため。

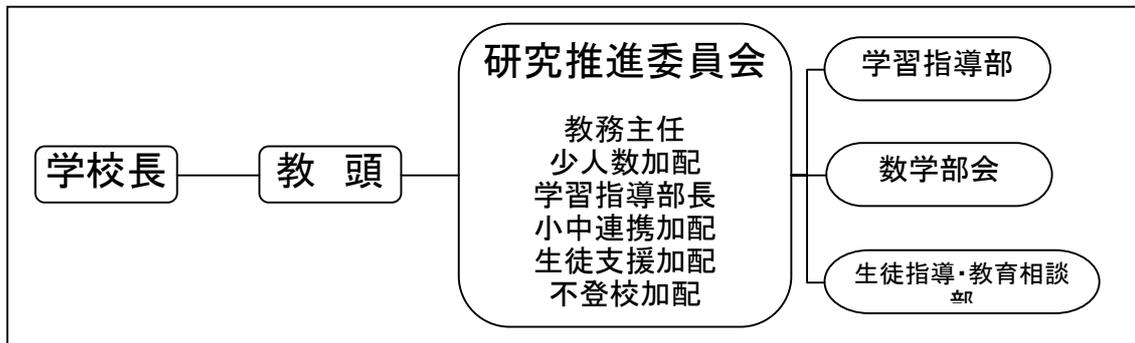
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導による「確かな学力」の充実</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟の程度に応じた少人数授業を追求していくことで、「確かな学力」の充実を図ることができる。</li> <li>・習熟の程度に応じた少人数授業に対応した教材開発（特に、数学的な見方・考え方を中心にした）することで、少人数授業の有効性が高まる。</li> <li>・生徒一人一人の実態に応じるためには、学習面だけでなく、生活面も見据えた取組を構築する必要がある。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1)個に応じた指導方法の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟の程度に応じた少人数授業の実践</li> <li>・個人学習カルテの作成</li> <li>・学習SOSチェックシートの活用による生徒理解</li> </ul> <p>(2)個に応じた指導のための教材開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「数学的な見方考え方」を大切に教材開発</li> <li>・級別プリントの改訂</li> <li>・課題のある生徒への教材開発</li> </ul> <p>(3)評価方法の研究開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イーベル法による評価に関する研究</li> <li>・CRTとの比較による本校評定の妥当性の検証</li> <li>・数学への関心・意欲・態度の評価研究</li> </ul>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導による「確かな学力」の充実</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟の程度に応じた少人数授業に対応した教材開発（特に、数学的な見方・考え方を中心にした）することで、少人数授業の有効性が高まる。</li> <li>・生徒一人一人の実態に応じるためには、学習面だけでなく、生活面も見据えた取組を構築する必要がある。</li> <li>・学力実態を分析、把握することで教材や、指導方法が改善される。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟の程度に応じた少人数授業の実践</li> <li>・個人学習カルテの作成</li> <li>・学習SOSチェックシートの活用による生徒理解</li> <li>・「数学的な見方考え方」を大切に教材開発</li> <li>・級別プリントの改訂</li> <li>・課題のある生徒への教材開発</li> <li>・イーベル法による評価に関する研究</li> </ul>
--------	--

- ・CRTとの比較による本校評定の妥当性の検証
- ・数学への関心・意欲・態度の評価研究
- ・様々な手法による学力実態の分析

### (3) 研究推進体制



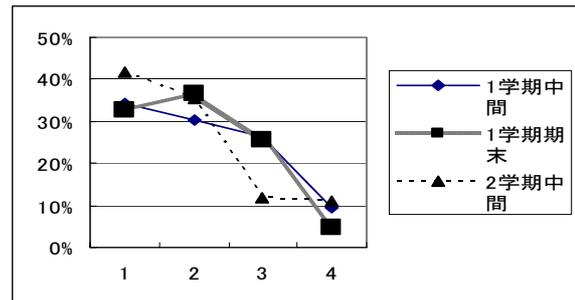
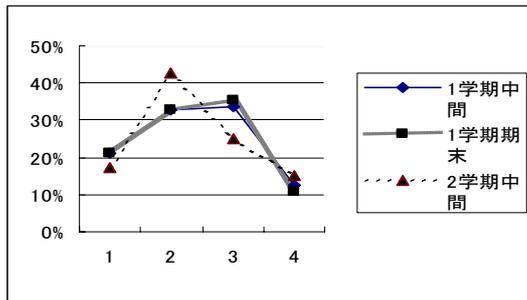
## Ⅲ 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

### 1 研究の成果

- ・習熟の程度に応じた少人数授業が生徒たちの中に定着し、生徒の数学への関心、意欲、態度が向上した。

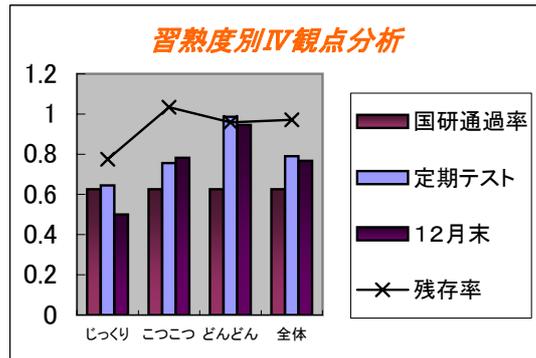
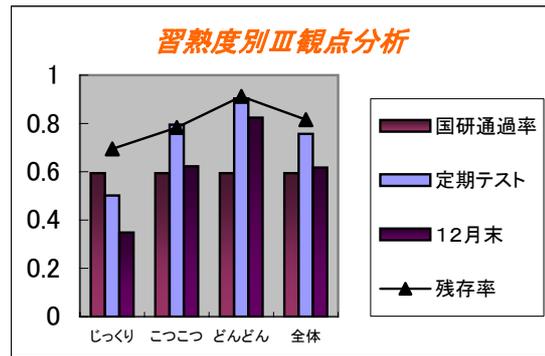
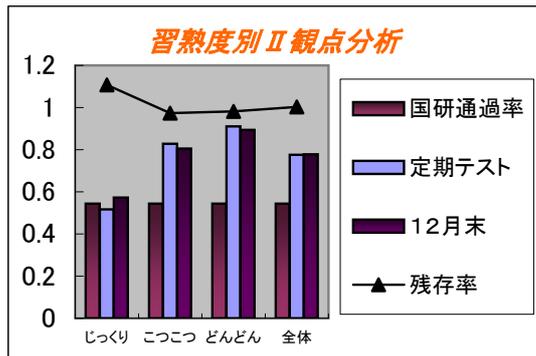
関心のあることや、興味のあることが出てきた。

授業で大切だなと思うことをノートにまとめた。



1:「はい」 2:どちらかといえば「はい」 3:どちらかといえば「いいえ」 4:「いいえ」

- ・個人学習カルテ作成が、一人一人の学力実態の把握が数学科教員で共通理解することが可能になった。
- ・学習SOSチェックシートによって学習に苦戦する生徒の早期発見が可能となった。
- ・「数学的な見方・考え方」を大切にした教材がいくつか開発され、習熟の程度に応じた授業実された。
- ・少人数授業や教材開発を通して、学習内容が定着したと見ることが可能な資料が得られた。



- ・ 先行研究や、大学の先生方を招聘しての研修により、評価に関する理論的な研究が進められた。
- ・ CRTと本校評定を比較することにより、本校の評定の妥当性が検証された。

## 2. 今後の課題

- ・ 教材開発の一層の推進（数学的な見方・考え方及び発展的課題）
- ・ コンピュータソフトを利用した、繰り返し学習による基礎・基本の徹底
- ・ 個人学習カルテの充実と有機的な利用方法の研究
- ・ 関心・意欲・態度の評価方法のさらなる研究と実践検証
- ・ 統計処理を利用したデータ解析による、少人数授業の有用性の検証並びに生徒実態の把握
- ・ HPの作成による広報、普及活動
- ・ 保護者向け少人数授業の授業公開の実施

### 学力把握のための学校としての取組

- ・ 教研式標準学力検査（CRT・NRT）の実施
- ・ 2年生において学力診断テストの実施（府下全域）
- ・ 国立教育政策研究所実施の教育課程実施状況調査の問題を利用した比較

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 第3回乙訓地区学力向上推進協議会での研究報告
  - 日時：平成15年11月10日（月）
  - 場所：乙訓教育局
  - 対象：乙訓管内小・中学校教職員代表、管内市町担当指導主事、教育局担当指導主事
- ・ 乙訓地区学力向上推進協議会 学校別
  - 日時：平成16年2月2日（月）
  - 場所：長岡中学校
  - 対象：乙訓管内小・中学校教職員、教育局担当指導主事
- ・ 数学科授業研究会
  - 日時：平成16年2月3日（火）
  - 場所：本校教室、長岡京市教育センター
  - 対象：乙訓管内小・中学校教職員、山城・中丹管内中学校

- 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）
- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 その他
- 【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無